航空ファン

ワイドカラー

WIDE COLOUR

ヘルキャット戦闘機

F6F

THE KOKU-FAN



☆特集☆

岩国基地の米海兵隊機

の新鋭攻撃機 A

'71 5



第1海兵電子戦飛行隊(VMCJ-1)のEA-6Aイントルーダー電子戦機。尾翼に"ゴールデン・イーグル"のマークを付けている


RM
3093
VMCJ-1
MARINES
15



第115海兵戦闘攻撃飛行隊のF-4B。飛行隊は ただいま岩国基地に移動中。


RE







同じくタイ国基地で待機中の米空軍のF-105Dサンダーチーフ。下の機体は胴体下に750ポンド爆弾を用意して待機中



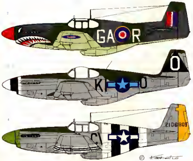


ダッソー 「ミラージュF1戦闘機は ミラージュ III の後継機として開発されている機体で 現在3機が試作機が完成して テスト飛行がつづけられて る

1 2 MUSTANG MK III No. 112SQN No. 239F.B. W.NG
3 P-51B 55TH F.SQN 20TH F.G 8TH A.F
4 P-51B 368TH F.SQN 359TH F.G 8TH A.F

2 ムスタングMk III イギリス空軍第239戦闘爆撃航空団第112中隊機
3 P-51B 第8空軍第20戦闘大隊第55中隊機
4 P-51B 第8空軍第359戦闘大隊第368中隊機





©

ノースアメリカン P-51B ムスタング

NORTH AMERICAN P-51B MUSTANG

キットについて

第2次大戦における最優秀戦闘機として ひろく認められているP-51は 試作型からA B C D K Hなどの各型があり このうちBとD型が最も有名であるが レベルの1/32シリーズにこのB型のキットがあって現在発売されている。

精緻なエンジンや実感のあるコクピットなど鮮明な仕上りを示し 傑作の多いことが認められているシリーズのひとつである。

キット付属のデカールは3種あって 第8空軍第361戦闘グループのほかに 有名な第8空軍第4戦闘グループの Shangrila と タイガー シャークマークの 第9空軍第363戦闘グループの機体に仕上げることができる。またレベルから発売されているレベルデカールのシリーズにも 3種のデカールがあって簡単に入手できるから 塗装のバリエーションを充分に楽しむことのできる楽しいキットである。

塗装について☆

図1と2 機体の上・側面はダークグリーン23とダークシーグレー25の迷彩で 下面はダックエッググリーン28 胴体の文字は白1+30 シャークの口は赤と白および黒のつや消し。スピナーはレッド3+30となっている。

図3 翼の上面と胴体の背が図のようにオリーブドラブ12 胴体側面と機体下面は無塗装でシルバー8 国籍マークは特殊なタイプでライトブルーの星と枠である 尾翼の三角は黒で文字は白

図4 機体の全面が無塗装(ジュラルミンのまま)シルバー8を塗装で 主翼の上下面と胴体に白と黒のインベイション ストライプスがある 機首はライトグリーン(6のグリーンと27機体内部色)光線反射よけは38のオリーブドラブが代用できる。方向舵は少しオレンジのまじったクロームイエロー(4+3)(調色)の塗装となっている　(K Hashimoto)

P-51B データ(P-51B specification)
乗員1名(crew 1) 翼幅(dimensions) 全幅(span) 11.28m 全長(length) 9.82m 全高(height) 4.17m 全備重量(gross weight) 3,788Kg 発動機(power unit) パッカード(packard) V-1650-3 1,350HP×1 最大速度(max speed) 708Km/h 実用上昇限度(service ceiling) 12,800m 航続距離(最大)(range) 2,720Km 武装(armament) 12.7mm×4 爆弾(bomb) 450Kg×2

The P-51 widely known as the most excellent fighter during WWII varies A B C D K and H models in addition to its test manufactured Among other models Model B and D are most famous and the Model B kit is now on sale from the Revell 1/32 series

With an elaborate engine and graphic cockpit the Model B kit gives so a vivid description of the P-51 that it is recognized as one of the masterpieces of Revell 1/32 series kits

Three kinds of decal are attached to this kit that of the 361st Fighter Group 8th Air Force Shangrila of the 4th Fighter Group of the 8th Air Force and the Tiger Shark insignia of the 363rd Fighter Group 9th Air Force Different decals suitable for this kit are also on sale from Revell and model fans can easily and fully enjoy painting variation.

PAINTING

Fig 1 and Fig 2 The top and sides of the fuselage are camouflaged in Revell Color (RC) 23, dark green and RC 25 dark sea gray The bottom is RC 28 duck-egg green Letterings on the fuselage are RC-1 and 30 white The shark's mouth is painted red white and frozened black The spinner is RC 3 and 30 red

Fig 3 The upper surface of wings and the fuselage back are RC 12 olivedrub as seen in the figure The sides and the bottom surface of the fuselage are RC-8 silver The star in light blue depicts the nationality This is a special nationality mark The triangle part of the tail is painted black with white letters.

Fig 4 This is totally duralumin grounded and you can use RC 8 silver There are stripes of black and white on both sides of the main wings and on the fuselage The nose is light green (which can be made by RC 6 green and RC 27 cabin-interior color) For the shelter RC 38 olivedrub can also be used The rudder is painted a little orange-tinged chrome yellow (which can be made by mixing RC 4 and RC 3)

(K Hashimoto)

P-51Bの塗装に必要なレベル カラー	
1ホワイト	3レッド
4イエロー	5ブルー
6グリーン	8シルバー
12オリーブドラブ	23ダークグリーン
25ダークシーグレー	27機体内部色
28ダックエッググリーン	30黒つや消し
38フラットベース	39スカイブルー



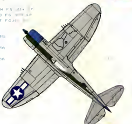
ノースアメリカンP-51B-5NA。マルコム風防にした1機で、第9空軍第363戦闘大隊第382戦闘中隊の司令官R.D.マクウエーター少佐の乗機。両主翼上面と水平尾翼上面に白い識別の帯を付けていた。

P-51C ムスタング戦闘機

1945年に米国イリノイ大学飛行場にて撮影したカラー写真で、このP-51Cは同大学の教材用として払い下げられた機体。尾翼上部と機首の機号だけの簡単な塗装である。



2 P 47D 65TH F SQN 57TH FG [illegible]
P 47D 378TH F SQN 362ND FG [illegible]
P 47D 405TH F SQN 371ST FG [illegible]



2


3


4


リパブリック P-47D サンダーボルト

REPUBLIC P-47D THUNDERBOLT

☆キットについて☆

第2次大戦の後半　主としてヨーロッパ戦線で活躍した重戦闘機で　大馬力　重武装のダンプカーなみの巨人戦闘機であるが　排気タービン過給器にものをいわせた　高々度戦のほか　対地攻撃にも能力を発揮し数多くのエースを生み出している。

レベル　キットには　1/32シリーズの大型モデルと1/72シリーズの両方からP-47Dのキットが発売されていて、どちらも優秀な作品といえるもの　1/72スケールのキットは例によって精巧なエンジンを内蔵　詳細なコクピットなどパノダンと定評のあるものである。

付属のデカール3種のほか　別売のレベル　デカールNo.1 もP-47D用のデカールがあるから　塗装のバリエーションを楽しみたい

☆塗装について☆

図①と②　第12空軍第79戦闘グループの所属機で機体は全面無塗装のジュラルミンはだ（シルバー⑧を塗装）カウリングの下面とスピナー，および垂直尾翼はスカイブルー㉞　尾翼の電光マークはイエロー④＋㉚，胴体の背の反射よけは図①②③④の機体とも，オリーブドラブ㊳を代用するとよい．胴体の番号は黒㉝

図③　第9空軍第362戦闘グループの機体で，これも全面シルバー⑧を塗装　カウリングはクロームイエロー（㉚＋③レッドを少量混色＋④）垂直尾翼はレッド③＋㉚で黒㉝の帯入り　胴体の文字は黒㉝である。

図④　第9空軍第371戦闘グループの所属機で　機体全面をシルバー⑧で塗り　カウリングはスカイブルー㉞　垂直尾翼はスカイブルー　方向舵はレッドのつや消しとなっていて，胴体の文字は黒㉝　シリアルナンバーはクロームイエローである。(K. Hashimoto)

P-47D　データ（P-47D　technical　data）

乗員1名（crew 1），諸元（dimensions）全幅（span）12.42m　全長（length）11.00m　全高（height）4.32m　全備重量（gross weight）6,610Kg　発動機（power plant）P&W　R-2800-2（2,300HP）×1基　最大速度（max speed）687Km/h　実用上昇限度（service ceiling）11,890m，航続距離（range）1,650～3,175Km　武装（armament）12.7mm×6　爆弾（bomb）900Kg

This is the heavy fighter which played an active part mainly in the European stage during the latter part of WWII. Being so highly powered and heavily armed this huge fighter can be compared with a dumpcart. Taking advantage of its big exaust turbine supercharger, it gave full play to its ability in high air battles and air to ground attacks as well.

Excellent P-47 model kits are now on sale from Revell's 1/32 and 1/72 series. The one in 1/72 series in particular has an established reputation because of its elaborate engine and precise cockpit.

In addition to three kinds of decal attached to the kits, there are various kinds of decal on sale from Revell. The 1/32 series kit has also a decal for P-47D, and model kit fans can fully enjoy painting variation.

PAINTING

Fig. 1 and Fig 2　This is the P-47 belonging to the 79th Fighter Group, 12th Air Force. It is duralumin grounded, and you can paint it in Revell Color (RC) 8 silver. The lower part of engine cover, spinner and the vertical tail are RC 34 sky blue. The lightning insignia on the tail is RC 4 and 30 yellow. For the shelter on the top of the fuselage (in all models in Figures 1, 2, 3 and 4) is RC-38 olivedrub.

Fig 3　This belongs to the 362nd Fighter Group, 9th Air Force. This is also duralumin grounded and you can use RC-8 silver. The engine cover is chrome yellow (which can be made by mixing RC 30 yellow with RC-3 and 4 red). The vertical tail is red 3 and 30. The stripe on the tail and letters on the fuselage are RC-33 black.

Fig 4　This belongs to the 371st Fighter Group, 9th Air Force. This can be painted totally in RC-8, silver. The engine cover and the tail are RC 34, sky blue. The rudder is frozened red, and the letters on the fuselage are RC-33 black. The serial number is in chrome yellow. (K. Hashimoto)

P-47Dの塗装に必要なレベル　カラー	
①ホワイト	③レッド
④イエロー	⑧シルバー
㉚フラットベース	㉝黒つや消し
㉞スカイブルー	㊳オリーブドラブ



リパブリックP-47Dサンダーボルト。P-47はP-51とならぶ第2次大戦中のアメリカ陸軍の主力戦闘機で、写真の機体はP-47D-23-RE。空母より発艦テスト中の大変に珍しいスナップ。機首のマークや増槽のタイガー・シャーク（サロメ）がおもしろいが、カラーでないのが残念である。

P 47D　サンダーボルト戦闘機

1949年に米国カートランド空軍基地で撮影したカラー写真で　テネシー州航空隊所属機。ジュラルミン地に真赤なマーキングの美しい機体である。



岩国基地の駐留機



VMCJ-1のEA 6A

USMC AIRCRAFT AT THE MARINE CORPS AIR STATION IWAKUNI

VMCJ－1のRF－4B



第1[illegible]（VMCJ－1）[illegible]写真偵察部隊となった[illegible]



VMFA-115のF-4B



海外への移動や本国への帰還で，隊員や航空機が削減されつつある在日米軍各基地のなかにあって，岩国基地はベトナムからの移駐などで，いま海兵隊の飛行機がいっぱい。

ただいま駐留中の部隊は，第12海兵飛行大隊傘下の第211海兵攻撃飛行隊（VMA 211），第233全天候海兵攻撃飛行隊（VMA(AW) 233），第12司令部付整備飛行隊（H&MS 12），第1海兵偵察写真飛行隊（VMCJ 1）と第15海兵飛行大隊傘下の第232海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA 232），第334海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA 334），第115海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA 115），第15司令部付整備飛行隊（H&MS 15）の8飛行隊。

2回にわたってこの各飛行隊の隊機を紹介する予定であるが，今回はこのなかから，第1偵察飛行隊のEA-6AとRF-4B，いま の基地に移駐しつつある第112戦闘攻撃飛行隊のF-4Bをとりあげることにしよう。









左ページとこのページ上はVMCJ－1のEA－6A。ECMなどの電子機器をしたイントルーダーの偵察型。上はその尾翼の部隊マークで，赤い“1”の上に電光をつかんだ金色のわし（ゴールデン・イーグル）を描いたもの。右は同飛行隊のもう一つの偵察機RF－4B。下はその尾翼のマークで“わし”は電光のかわりにカメラをにぎっている。





上と下はVMFA 115のF-4Bファントム II。この飛行隊は"シルバー・イーグル"部隊として有名で、下が尾翼に描かれたその"銀のわし"のマーク。マークの上の2本の線はブルー（上）と赤。この部隊の各機は、それぞれナイト、トレン■、スコーピオン、ケオスなどのニックネームをもっており、胴体前上方にそれを記入している。このページ■下部と右は VMCJ-1のRF-4B。







第115海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA 115）は
次大戦中の1943年7月
リフォルニア州のサンタ
バーバラで、基地防空部隊
として編成されたVMF 1
がその前身と……伝統の
る部隊。基地の■■機は
4Fで、その後F9F
9J）なども装備してい
1964年からF-4Bとなっ
ベトナムに派遣され、
2月まで、ダナンとチュ
ライ基地で作戦したが
その間、66年春と67年春
2回、一時岩国に駐留し
いる。みなび岩国駐留と
して、ただし本部■中



アメリカ～韓国

フリーダム・ボールト
大空輸演習





1969年3月の フォーカス・レチナ作戦に続いて 米軍と韓国軍を軸の2回目の大空輸演習 フリーダム ボルト（自由の跳躍）作戦が 去る3月4 5 6の3日間 韓国の烏山基地北西の水田地帯で行なわれた

今回は 仮想敵軍が北方から非武装地帯を越えて侵入したとの想定のもと 米空輸軍団のC 141スターリフター14機でデーブ基地から運ばれた米第82空挺師団の1個大隊が 750人と韓国陸軍の特殊部隊降下部隊が 250人の侵入地点 落下傘降下 地上軍と共同で敵を掃討するというもの

〔前ページ上〕C 141から降下する米第82空挺師団の隊員たち 〔間下〕烏山近くの水田地帯へ降下 〔上〕いずれもC 141から降下の模様で 4日10時10分 米第82空挺師団の 750人の隊員たちがつぎつぎ降下した 〔左〕落下傘をはずして戦闘準備 演習はクライマックス 〔下〕空挺隊員を回収して烏山基地へ帰投するC 141





上）烏山基地を警備する韓国軍の兵士　後方は離陸する米空輸軍団 C 141　左上）空挺作戦の中継地　沖縄の嘉手納基地　輸　する米空挺隊員　アメリカを発って24時間たらずで沖縄　到着　左下　降下地点　待機する衛生兵　米韓合同の降下隊員は約1千名　いっせい降下を見つめる衛生兵の目も緊張する







上）C 41　乗り込む韓国陸軍の特殊降下隊員　両隊員25[illegible]人は4日10時すぎ　C 141の米空挺隊　続いてC 41から降下　下　地上部隊　仮想敵の侵入地点めざして展開する米空挺隊員　空は隊員の降下装備を運んだCH 47ヘリコプタ





〔上〕空挺隊が降下するときにも，韓国と米空軍の戦闘機が直援のため，現場へ急行した。写真は4機編隊で，戦闘地点[illegible]を行くF4。地上の空挺戦闘の要請によって，対地掃射攻撃を終えて帰投





今回の演習で降下部隊の援護に参加した戦闘機は，米空軍のF4Dを主に，韓国空軍のF4D，F5Aそれに F86Fで，すべて4機でがっちりと隊を組んでの出撃であった。さらに戦闘地点上空を米空軍のO2A，F[illegible]C機が旋回しつつ戦況を見まもった。

〔上〕FAC機として参加したO[illegible]A，韓国駐留の米航空[illegible]直接航空[illegible]行隊所属機。〔左〕米空軍のF4D，第[illegible]戦術戦闘飛行隊所属機。〔下〕[illegible]メ]カから空挺部隊を運んだC141





横田を去るF-4Cファントム

[illegible]の嘉手納基地に移駐することになった横田のファントム戦闘航空団第347戦術戦闘[illegible]
[illegible]その第1陣が去る3月11日 横田基地を離陸した。
[illegible]オークス中佐に率いられた[illegible]
[illegible]飛行隊の各機 沖縄まで約2時間の飛行途中 嘉手納基地から飛び立[illegible]
[illegible]378[illegible]のKC-135[illegible]から[illegible]空中給油を受けながら
[illegible]であった。この第347戦術戦闘航空団のF-4Cは 嘉手納基地の[illegible]
[illegible]編入されることになり [illegible]戦術飛行隊の機材と要員は 同基地の[illegible]
[illegible]飛行隊の所属となって [illegible]戦術飛行隊 の称号は 新しく[illegible]
[illegible]で編成される第3[illegible]に[illegible]することになるという。347[illegible]
[illegible]からの移動は 3月末までに完了の予定。写真は3月11日 横田を出発[illegible]
F-4C。中の写真は[illegible]





フォート ニュース



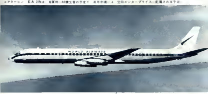


〔上〕このほど完成したオーストラリアのエアトラックPL-12農業用機 操縦席の位置は[illegible]らんのように かなり高いところにあり パイロットの下方視界は良好で 胴中央のある薬剤わきのそまつる操行機から[illegible]も容易に[illegible]できるのが特徴 肥料や種などの積み込みに便利なよう[illegible]扉は2枚に分かれており 薬剤散布機は プロペラ後流をうまく利用した位置にとりつけられている[illegible]ントゥーのトラザヒア社で量産中（本文記事参照）

〔右〕ファイバーグラス製の水陸両用機P-300イクエイター 西ドイツの[illegible]ヘンシェル社製である 8人乗り ちょっとせ[illegible]たくたか 草原でも水上でも発



〔上〕米海軍のECM機EA-6B[illegible]6機の完成、第1号機は[illegible]年[illegible]月に海軍へ引渡されている。複座のA-6Aの発展型であるEA-6Bは[illegible]4座席となって機首が1.37m長くなり、ECM機材も強化されている。写真は飛行テスト中の1号機で、主翼下のパイロンに見えるのはECM装備ALQ-99のノイズ防害用電波を出す装置で、ポッドの先端は4枚の羽根が付[illegible]その動力用のラムエアタービン。EA-6Bは海軍用40機生産の予定で、現[illegible]空母エンタープライズに配属される予定



〔上〕世界最大のチャーター会社アメリカのワールド・エアウエイズのマークを付けたDC-8スーパー63F。同社は[illegible]極東方面やアフリカ、南米と世界各地へチャーター輸送を行なっているが、[illegible]今後その需要の増大に対処するため、このDC-8-63Fを3機発注、3～5月のあいだに受領することになっている。

〔下〕カラベルの最終生産型カラベル12は、このほど型式証明を取得して、まもなく路線に就航することとなった。写真の機体はスターリング航空向けの1号機





（上）ミグ21の複座練習型 モンゴル MiG 21Fの機銃をはずし タンデム複座にしたもので 練習席の風防は右側開く横開き式 これは最近のスナップで この機体はドラッグ シュートを付けているようである。（下）スホーイSu 7の複座練習型Su 7UTI Su 7UTIは 1967年のドモヂドボ航空ショーでも姿を見せているが 近くで撮影した写真は珍らしい





（下）心臓部ともいえるエンジンの生産会社ロールス・ロイスの倒産で先行きが不安なロッキードL-1011ではあるが，すでに完成した1・2号機による飛行テストは予定どおり進められており デルタ航空向けの3号機も製作中である。写真は1号機とトランス・ワールド航空向けの2号機（手前）の編隊飛行 1号機はすでにマッハ0.95を記録している。



〔上〕ベルギーのサベナ航空はDC 10の貨客兼載型DC 10 30CFを2機発注しており1978年の末に受領することになっている。同型は乗客225人と22のパレット、乗客115人と8つのパレットを積むことができ、すべて貨物にすると14のコンテナーと4つのパレットが積める。写真は同航空の塗装をした完成模型

〔右〕アメリカのシアトル南方にあるセントヘレンズ山は富士山そっくり。写真はその山の上空を行くボーイング747の機体はスカンジナビア航空へ引渡される1機で、いまテスト飛行中



〔右〕日本に駐留している米陸軍空軍の4つの飛行クラブではこのほど11機のセスナ150を購入したが、その各機は写真のように主翼がはずされ、州航空隊のC 124で運ばれた



〔上〕横田基地の第61空輸軍団支援飛行隊では、H 19 型機をUH 1Pヒューイで代替することになったが、写真は1月3日横田に運ばれたUH 1P



スナップ だより







（上）横田基地に着陸するファントム。F 4DとRF 4Cという戦闘飛行隊と偵察飛行隊の2機が編隊を組んでの飛行は珍らしい。両機とも三沢基地から飛来したもの。1月中旬の撮影（国分寺市　井上昌鴻）。

（右上）横田基地を離陸するMC 130E。ハーキュリーズのミサイル捕獲機で、両翼下のパイロンに無人標的機を2基吊り下げられる。2月中旬の撮影（東京都・北原則幸）。

（右下）アメリカ連邦航空局のVT 39セイバーライナー。機体と翼端は赤のはでな塗装をしている。1月上旬撮影　横田基地に2機が駐留している（川崎市・鵜住應派）。



（左）羽田の東京国際空港に飛来したイギリス空軍のC 4コメット輸送機（XR397）。2月1日の撮影。このほか、羽田には、英空軍のブリタニア253、ブラジル空軍のC-130E、カナダ空軍のCC 106など、昨年暮から今年にかけて、軍用機の飛来も多い（東京都・飯島翠）。



グラマンＦ６Ｆヘルキャット

零戦をおびやかしたアメリカの艦戦



艦上戦闘機[illegible]、[illegible]で零戦にさんざん痛めつけられたF4Fワイルドキャットの後継機としてつくったのが、このF6Fヘルキャット。当時の最強力のダブルワスプ・エンジンを装備した頑丈な機体。装甲も強力で防弾もかたく、むちゃな使い方をしてもトラブルはほとんどなかったという。優秀機。決してきれいな工作機ではなかったが、それまで太平洋の空に君臨していた零戦にとっても、強い相手であった。対戦闘機戦闘ばかりでなく、地上攻撃や味方機の護衛にも好適で、万能の日本軍にとって、まことにいやな存在であった。アメリカが太平洋上の航空戦で勝利をにぎることになった立役者でもあり、グラマンは本機で[illegible]の[illegible]をみごとに成しとげたわけである。

(前ページ写真)[illegible]で飛行中のF6F-3、第9戦闘中隊の所属機。ヘルキャットの最初の量産型F6F-3は1943年早々から空母に配備されている。すべてこの写真のように、シーブルー、インターミディエイトブルー、インシグニアホワイト三色の迷彩塗装でのデビューであった。この写真の機体は、中隊ナンバーを明示している珍らしい例。

(上)F6F-3の1機で、これはのちに変えられた全面つや出しのシーブルーの塗装。

(下)ヘルキャットの二つめの量産型で、いちばん多く造られたF6F-5。1944年夏頃から戦場へ姿を現わしたF6F-5は、ほとんどが全面シーブルーの塗装をしての登場であった。写真の機体は戦後海軍予備航空隊に配属された1機。









このページ3枚はすべてF6F-5で、戦後撮影されたもの。中の機体はニューヨーク基地所属機。ヘルキャットの生産は終戦後の1945年11月までつづけられ、1万2千機余も造られている。一部はその後海軍予備航空隊にまわされるなどして、戦後10年間も就役している。





このページの写真は，いまでは[illegible]ものとすっかり[illegible]になった[illegible]が所蔵している[illegible]のように　現在[illegible]状態，ときどき[illegible]の塗装も新しい。





[illegible]



上、下　イギリス海軍に譲渡されたヘルキャット。上はヘルキャットNF MK [illegible]



未発表海軍機写真集④





Aircraft of the Kasumigaura Training Air Corps, May 1943. In the foreground are, left to right, a Zero Fighter Mk 21, a Type 96 Carrier Fighter, a Type 2 Advanced Trainer, a Zero Mk 21 and a Type 97 Carrier Attack Bomber. Also visible in the picture are Type 99 Attack Bombers.

A Type Zero Fighter Mk.21, a Type Zero Two-seat Trainer and some of the Army aircraft in the background sat on the ground of the Gannosu Airfield with empty tanks Oct 1945



〔60・61ページ見開き〕大戦も終局近くなった昭和20年5月頃の霞ヶ浦航空隊 滑走路に並んでいるのは左から零戦21型、93式陸上練習機、2式中間練習機 ... 97艦攻 ... 後方に96式陸攻が2機見える 上空を"赤とんぼ"の名でしたしまれた93式中間練習機が飛んでいる 同航空隊の訓練機が一同に会した珍らしい写真 一見のどかに見えるが

〔前ページ〕終戦後 飛行場に集められた陸海軍機。手前に零戦21型と陸軍の零式輸送機 がならんでおり 後方には陸軍の 式戦闘 機 爆撃機などが翼をつらね 遠く は 式戦改造らしきものも見える このあとで すべてプロペラをはずされ爆破されたものと思われる 手前に当時の乗用車 と通勤用に使っていたー サン スペシャルセダン 37年型 が写っているが れもなかなか興味ぶかい。1945年10月の撮影

〔下〕同じく終戦後 九州のある飛行場に かく座 して る零戦52型。プロペラはなく 車輪もはずれかけている。"武装解除"前のショット 1945年11月4日の撮影





現地ルポ

続報・ヤップ島の零戦



SURVIVING ZERO FIGHTERS IN THE ISLAND OF YAP

ヤップ島に"生残"している日本機については これまでも本誌でたびたび紹介しているが これは昨年11月号 [illegible] の近況を寄せてくださった [illegible] さんが [illegible] の1月 ふたたび同地を訪れ カメラにおさめた その島の [illegible] 12機ほどの零戦のほか [illegible] 機の残骸 [illegible] ヤップ島に残る日本機をつぶさに [illegible] 現地ルポで、2回にわたって掲載の予定である。本文記事とあわせてごらんください。

このページ3枚は ヤップ島の [illegible] にある零戦52型の1機。比較的 [illegible] の良い機体で [illegible] は完全 [illegible] カウリングも半分残っており [illegible] の [illegible] や52型の特徴であるエン [illegible]







〔上〕左ページと同じ零戦52型を真横から見たもの。昨年11月号にもこの機体のスナップを掲載してあるが、そのときに折れて垂れ下っていた主翼が、いまではこのように完全に折り曲げられている。一日も早く手を加えないと、一層も風化した[illegible]も、同一機とその原形をくずしていく。
〔左〕上の機体の操縦席左側。中央の2本のみぞのなかは[illegible]は燃料操作下と尾輪ロックハンドル[illegible]の前方（写真右側）に計器や通信機などもあったが、そうした部品はすべて取り外されずに[illegible]



〔下〕これも上の機体の内部で、後部より前方を見たもの。正面の操縦席計器板は、計器類のすべてはずされ、わずかに円い輪のなかに把手のついた方向舵回転レバーが残っているのみ。その左横、中央の丸い穴は回転計、その左の二つの穴は回転計（上）と精密高度計の取付部と思われる。〔右〕同じ機体の右主脚部。ボロボロながらカバーもちゃんと残っている。主脚付根上方に見える主翼前縁の穴から20mm機銃の銃身が出ていた。







〔上〕これもヤップ島の空港近くに、3機かたまって置かれている零戦。右端は21型で 前方に首を垂れた状態の1機は52型 その奥も52型と思われる機体

〔左〕その21型の胴体中央部 カウリングがはずれてエンジンはむき出し 外板はいたるところがボロボロで 機内の計器類もすべてなくなっているが ヤップ島の零戦のなかではいちばん程度の [illegible] も零戦であろうと [illegible]

〔右〕52型と思われる1機の胴体 残された日の丸のあと 一面に赤い錆止め塗料が塗られており 日の丸も白い縁でそれとわかるのみ 側面にはグリーンの塗料もわずかに残っている

〔下〕側面から見た機体 主脚でしっかりと立ち 左主翼翼端を折りまげて 空母の格納庫に収納時の感じ(?) ラダーはなく プロペラも1本かろうじて付いている この機体の写真は11月号でも紹介してみたが それと比べて 痛み方も大して進んでいないことがわかる





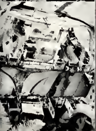




〔上〕44ページの零戦32型のすぐ近くにあるもう1機の零戦52型。エンジンは胴体からはずされて 主脚もなし。しかし この機体も程度の良いほうで 復元は可能であるという。

〔右〕空港への道路わきの草むらで見つかった零戦52型の機首。まがってはいるが プロペラも3本ともに付いている。

〔右下 下〕この2枚は 上の機首の胴体中央部で 機首からちょっと離れたところに置かれているという 操縦席部分がまるまる残っており 下面には主翼も付いている 操縦席内は これも計器類はすべてないが 機銃部分中央のレバー ペダルなどがどうにかかたちをとどめており、引くなどの日本文字も読めた





写真で見る2次大戦の米海軍機マーキング

キングフィッシャー アベンジャー他





〔前ページ〕ボートOS2U 3キングフィッシャー観測機　1942年4月1日の撮影で　撮影場所と所属部隊は不明であるが　おそらく訓練部隊で乗員訓練に使っている機体と思われる。胴体と水平・垂直尾翼は銀塗装　主翼は上面クロームイエロー　下面を銀に塗っているが　列中に胴体上面をブルーグレー　下面をライトグレーに塗った1機があり　たぶん全機を一の塗装に塗りかえ途中のものであろう。

〔上〕編隊で飛行する海兵隊のTBF 1アベンジャー　1943年12月5日の撮影。各機とも機体上面つや消しのブルーグレー　下面ライトグレーの塗装　真中へんに1機だけ　1943年以前の　おびのない国籍マークを付けた機体のあるのに注意

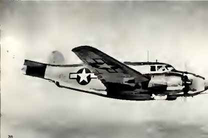
〔下〕同じく海兵隊のTBF 1だが　これは43年2月から規定された二色の塗装　所属部隊は不明であるが　ソロモン群島のベララベラにて　1944年1月24日の撮影





〔上〕太平洋戦線で哨戒・爆撃に活躍したロッキードPV-1ベンチュラ。機体上面ブルーグレー，下面ライトグレーの塗装で，中央部胴体側面のほかに，機首の側面にも国籍マーク（みぞなし）を付けた非常に珍しい塗装の機体　1944年3月1日の撮影

〔下〕PV-1の性能向上型PV-2ハープーン。上側面つや消しのシーブルーとインターメディエイトブルー，下面インシグニアホワイトの塗装





エアラインの翼

ルフトハンザ ドイツ航空 ②

〔上〕ルフトハンザが1932年に導入したユンカースJu52／3m。旅客定員は15～17名。同機は4,800機近くが生産され、当時世界各国の航空会社で使用された優秀機。ルフトハンザでも1930年代の主力機として、ほとんどすべての路線で使っている。〔下〕1931年7月からベルリン—アムステルダム—ロンドンの国際路線に就航した4発の長距離機ユンカースG38。乗客定員34名の大型機で、翼前にラウンジがあり主翼前縁部にはコンパートメントも設けられていた。



〔下〕1934年に開始された南大西洋横断定期郵便飛行に活躍したドルニエ・ワール飛行艇。主翼中央部上面に牽引式と推進式のプロペラを付けた双発飛行艇で、洋上の浮かぶ飛行基地を中継地として郵便を積んで大西洋を横断した。



花ざかり　ホームビルト機 ④



マッキノンの飛行機たち

マッキノン・ターボ・グースは、世界でも珍しいターボプロップの飛行艇である。

アメリカのオレゴン州にあるマッキノン社が、グラマン・グース飛行艇を改造してターボプロップ化したもので、本機では、エンジンはピストン式のP＆W PT6A(680SHP)に換装され、性能が大幅に向上している。

こんな旧式飛行機を改造しなくても、と思う人もあるかもしれないが、この種の中型飛行艇の生産が中止されてから、すでに20年以上もたっているので、どうしても需要があるから、根強い需要がある。

ターボ・グースには各種の型がある。G-21Cはエンジンを換装してキャビンを9～12席に改造しただけだが、G-21Dは機首を61cm延長して安定をよくし、水平尾翼が強くなっている。また、G-21Gはエンジンを680SHPのPT6A-27（ほかの型は579SHPのPT6A-20）を装備した性能向上型で、機首はレーダーを付けるため延長され、エンジン・ナセルの形も変っている。

〔G-21Cデータ〕主幅15.49m、全長12.07m、翼面積34.44m²、空虚重量3,720kg、最大離水重量5,385kg、最大速度358km/hr、最大航続距離1,600km。





G-44スーパー ワイジョン。グラマン ウイジョンのエンジンを270HPのライカミングGO 480 B1Dもと4気筒のレンジャー直列発動機と換装して性能を向上した飛行艇。これで速度は100km/hr近くなり離水や上昇能力もよくなった。

〔G 44データ〕全幅12.18m 全長9.47m 全高3.48m 最大離昇重量2,500kg 最大速度300km/hr 巡航速度160km/hr 最大航続距離1,600km

写真 左ページ上：工場の前に勢ぞろいした全機。工場といってもエンジンの換装と内装の変更なので、みな小さなものですも、これが世界最大の飛行艇生産拠点。

……ースG 21型は、強力で頑丈……装備したスマートな飛行艇。水陸両用で、フロートは翼端へ引込み式。

〔上〕スーパー ウイジョンはグースより小型だが、いままで世界中で手に入るもっとも経済的な飛行艇。沼と湖の多い地方には欠かせない機体らしい。

〔下〕向うのターボ グース、手前のスーパー ウイジョン。手前のは[illegible]。

〔編集部より〕本誌に掲載中のホームビルト機について、製作者の住所、キットの購入方法などに関する問合わせを読者の方からたくさんいただいております。次号の本欄でまとめてお知らせする予定ですから、しばらくお待ち下さい。

